氏名	役職	専門分野
内田　貴久	准教授	構造工学

1.　主な研究テーマ

①　旧長崎市内公営住宅団地に関する研究

戦後の住宅不足解消に始まり、高度経済成長期から現在まで全国に多く建設されてきた公営住宅団地ですが、近年は人口の少子高齢化や建物の老朽化などもあり、全国的に**公営住宅団地の空き室増加**が問題になっています。社会福祉的な意味のある公営住宅団地を取り壊して他用途建築物に建て替えたり、地球環境負荷への配慮という観点から老朽化した団地を新たに建て直すのは現実的な選択肢ではありません。現在建っている公営住宅団地をこれからより良く活用していくためには、**現住宅団地の現状把握**をした上でその**各団地に合わせた空き室対策**等の知見を得る必要があると考えて研究を行っています。

公営住宅団地を有効に活用していくため、全国の自治体が様々な取り組み（民間企業と一体となった住空間整備や公営住宅入居要件の見直しなど）を行っています。それらの取り組みに加えて、今まで行われてきた団地住戸の管理（空室時に行う住戸内装リフォーム）ではなく、新たな居住空間への**リノベーション**が空き室減少に有効だと考えていますが、まずはその**リノベーションの方向性**（想定する家族像と生活スタイル）を決める根拠となる長崎市内の団地に関する知見を集めることが重要だと考えています。

1-A.　長崎市街地近郊にある公営住宅団地の類型化分析

旧長崎市内の中でも利活用の可能性が高い市街地近郊の団地を対象とし、それらの現状（築年数、空き室率、交通利便性など）を把握した上で類型化を試みています。各団地の敷地条件とその建物現状に合った**利活用の方向性を探る**ためにも、長崎市内の多くの団地を**類型化して分析する**必要があると考えています。

1-B.　旧魚の町団地住戸に関する研究

長崎市街地の中心部に、全国 RC 公営住宅の**標準設計「48 型（1948 年設計）」**を基に建てられた**魚の町団地**の建物が残っており、その中の 1 室が復元保存されています。過去の様々な資料から魚の町団地の住戸設計経緯を再確認し、当時の社会状況と家族像を理解した上で 48 型の住戸平面と魚の町団地の理解を深めることは、現社会状況における団地平面の提案にも役立つと考えています。

②　長崎市内斜面地の空き家活用に関する研究

長崎市には、その地形的特徴から市街地近辺に**住戸が建ち並ぶ斜面地**が存在し、その中でも昔に住宅地化したエリアには老朽化した**木造空き家が多く発生**しています。建築基準法制定前に宅地化した斜面地であるため、階段状の道や車が通行できない狭小な道しか接道していないため、住戸の新築が困難というだけでなく空き家の撤去すら困難な敷地が多く存在します。

市街地近くに存在するこれらの**古い木造空き家や空き地**が有効に活用されることは、その**地域の活性化**につながり、市街地全体の活性化にもつながると考えて研究しています。

2.　キーワード

建築設計　建築計画　公営住宅団地　空き家対策　少子高齢化社会における地域活性化

SDG s 17（3.すべての人に健康と福祉を 11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任）

3.　特色・研究成果・今後の展望等（社会実装への展望・企業へのメッセージもあれば）

公営住宅団地と斜面地に木造空き家の利活用に関する研究成果が、自治体や地元企業に伝える（長崎県に対しては年度末に学生論文発表会を行っている）ことで、長崎市内の団地空き室減少と空き家対策につながることを期待しています。さらに、**団地の住戸改修平面や空き室の改修設計提案**まで行う予定であり、その住戸リノベーション設計案が**実現具体化する**ことも期待しています。

researchmap：https://researchmap.jp/uchida.archi

設計事務所 HP: https://www.uchida-archi.com/